



てじま・としお＝1952年東京生まれ。江東区立東雲・八名川小学校校長を歴任し、ESDカレンダーの開発・ESDの推進に努め、両校ともにユネスコスクール・ESD大賞を受賞。07年～18年まで内閣府ESD円卓会議委員等を務め、ESDの普及・拡大に努める。15年、博報児童教育振興会より教育活性化部門で博報賞。著書に『未来をつくる教育ESDのすすめ』（日本標準）、『学校発・ESDの学び』（教育出版社）。ホームページは「ESD・SDGsを推進する手島利夫の研究室」。

新型コロナウイルス対策から 厳しい時代の学びを考える

グローバル化し、激変を続ける社会では、思いもかけない方向から様々な課題が噴出してきて、決して解決できない課題である。新型コロナウイルス感染症の広がりもその一例である。

今年の2月まで、感染症の問題はアフリカなど遠い国の衛生上の問題だと思っていた人がほとんどだったのではないだろうか。しかし、今や我が国だけでなく、世界の存続を揺るがす重大問題である。

しかも、これは感染症への治療という保健の学習的な視点だけでは決して解決できない大きな問題である。感染を広げる交通の発達をどうコントロールするのか、3密を避けた学校教育はどのように工夫すればできるのか、企業の活動をどのように制限するのか、職を失う人の補償をどのようにするのか、人々に何をどのように伝える、どのような行動の変容に結び付けるのか等々、医療だけでなく政治や国際的な協力、教育、流通、情報、モラルなど幅広い視野から

総合的に考え、多様な人々が連携・協力して対応していかなければ、決して解決できない課題である。子どもたちの生きていく世界、そして私たちがいま生きていく世界は、このように複雑で困難な課題に満ちた、新たなフーズに入っているのである。感染症の課題だけではない。地球の温暖化によって砂漠化も広がり、100年に一度と言われるような豪雨災害が頻発し、台風も巨大化している。海の温暖化も酸性化も進み、生物の多様性が失われようとしている。食糧危機は紛争の原因にもなりかねない。

教員は協力し合って、持続可能な世界に向けたSDGsの視点から、全ての単元を見直し、教科等横断的に関連付けた指導として、それを「ESDカレンダー」という形にまとめ、整理し、年間指導のイメージマップを共有することが、カリキュラム・マネジメントの出発点となるのだ。

それをどのように主体的・対話的な学習として単元を構築するのか、教員の指導力とも言えるのである。しかし、このような教育を受けたことのある教員も保護者もない。

「自分たちはそのような学びをしたことがありません」などという言い訳は通用しない。誰もが新しい教育を創っていく開拓者でなくてはならないのである。

もし学校がこのまま再開できない時間が続くようだったら、

江東区立八名川小学校

第6学年 「未来にはばたけ」学習カレンダー

教科領域	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語										
算数										
理科										
社会										
総合										
英語										
特活										
道徳										
音楽										
図工										
体育										
家庭										

カリキュラム・マネジメント
従来の教科分断的な発想から、教科横断的な発想への飛躍が必要！

未来にはばたけ！

八名川まつり 卒業式

12年後の私

調べたことを地域・保護者に発表する

⑥ 自分がなりたい職業を選び、実現への道筋を調べる

④ 将来の自分の姿を想像し、立体作品を作る

③ 将来の夢について考え、自分を見つめる

② 戦争中の生活や人々の願いを知る

① SDGsの視点から未来について、自分の考えをもつ

未来がよりよくあるために

⑤ これからの日本について考える

⑧ 世界の現状を見つめ自分の生き方・学び方について考える

世界が100人の村だったら

長く続いた戦争と人々の暮らし
新しい日本、平和な日本へ

子どもたちの学びは、そして未来は、家庭の教育力に左右されるだろう。

その時に知識や技能ばかりを教え込む「ソサエティ3.0時代」（文明開化から工業化の時代まで）の教育しか考えられない家庭では、計算の繰り返しや漢字の書き取りばかりさせ、それが子どもの教育だと満足するだろう。

しかし、時代はコンピュータが普及し、AIともビッグデータともつながった「ソサエティ5.0」の超スマート社会であり、必要な知識などはスマートフォンにでも聞けばいくらで

子どもたちの学びは、そして未来は、家庭の教育力に左右されるだろう。

このように時代における学びは、ものごとに興味が関心、あるいは問題意識をもって向き合い、自らの疑問に向かって学び進める力が重要なのだ。学校の先生方には「子どもの学ぶ心に火をつける」と指導してきた。同様に、子どもの疑問に答えを教えるような保護者ではだめである。「へえ、面白いことに